平成 24 年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） １１３	**提案機関名**	横浜市漁業協同組合
要望問題名　東京湾に発生する貧酸素水塊の発生メカニズムとその予測手法の開発について		
要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】 横浜市漁協のみならず、東京内湾で漁を行う漁業者は夏季の貧酸素水塊の発生によって漁模様に大きな影響を受けている。貧酸素水塊はシャコやマコガレイ、マアナゴ等の漁業資源変動にも大きな影響を与えると聞いている。今後、将来にわたって東京湾で漁業を営むには、貧酸素水塊の発生状況を捉え、それに対応した新たな漁業対象種や漁業のやり方を構築していく必要がある。 貧酸素水塊の発生メカニズムとその予測手法を開発していただき、今後もこの状態が継続するのか、また年による発生開始時期、その範囲等を示唆していただきたい。		
解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内	
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　[②畜産技術センター]　[③水産技術センター] ④自然環境保全センター	
備　考		

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	**担当部所**	資源環境部
対応区分	①実施　[②実施中]　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可		
試験研究課題名　（①、②、④の場合）　漁業環境試験研究（東京湾貧酸素水塊研究）			
対応の内容等　現在、漁業指導調査船江の島丸（105ｔ）や漁業調査船うしお（19ｔ）により溶存酸素量の調査を実施し、貧酸素水塊の動向を監視するとともに、「東京湾溶存酸素量情報」などの形で情報提供を行っています。貧酸素水塊の形成機構につきましては、有機物の分解により消費される酸素量が、光合成で生産されたり海水の移動により供給されたりする酸素量を上回ることによるものと考えられますが、多くの要素が複雑に絡み合い、定量化や予測は未だ困難な状況です。今後、他機関と共同するなどにより、溶存酸素条件に影響を及ぼす湾内の低次生物生産や海水の移動、酸素消費などを明らかにすることで、貧酸素水塊の発生メカニズムを解明し、さらにはその予測手法の開発につなげていきたいと考えております。			
解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　[④５～１０年以内]		
備　考			